

第4学年 総合的な学習の時間学習指導案
単元名 「誰にでも住みよい町 ○○」

指導者 福岡市立 小学校
教 諭

1. こんな子どもだから

- 本学級の子どもたちは、困っている友達を見かけると声をかけたり手を貸したりすることができる。特別支援学級在籍児童との交流（給食や行事と一緒に参加するなど）を通して、お互いの気持ちが通じ合う喜びを感じたり、関わろうとしたりする姿が見られる。また、国語科「手と心で読む」で、目が不自由になった作者の生き様や思いを学習し、点字や盲学校などに興味関心をもっている。目の不自由な人との出会いは今までなく、相手にわかるような方法や内容を考えて、相手に寄り添いながら学んでいこうとする創造的な態度での接し方については経験がない。【主体的・創造的な態度】
- これまでの学習で、興味・関心をもって自分なりに課題をもち、本やインターネットを使って追究活動を進めようとする姿は多くみられた。しかし、課題に対して調べたことを取捨選択したり、さらに追究していこうとしたりする学びには至っていない。【問題解決にあたっての学び方】
- 学習の終わりにふりかえりの時間を設けて、友達の活動のよさや自分のがんばりに目をむける姿が多く見られるようになってきた。しかし、自分自身の成長に気付けなかったり、これから取り組みたいことがまとまらなかったりしている。【自己の生き方】

2. こんな教材で

- 目の不自由な人との出会いを通して思いや願いを知り、自分の住んでいる校区に目を向け、自分にできることを考えることは、次のような価値があると考えられる。
 - ・疑似体験や目の不自由な人との出会いを通して、視覚障がいについての興味関心をもち、目の不自由な人の思いや願いを実感的に捉えることができる。
 - ・体験したことや課題を追究し中間交流会を設定することは、資料をもとに自分の考えをまとめる、相手にわかるように伝える、考えを付加修正し、次の追究活動への方向性を明らかにできるよさをもつ。
 - ・課題追究を通して、目の不自由な人にとってもっと住みやすい○○校区にするために見通しをもって追究活動をしたり、自分にできることを考えたりする。このことは、目の不自由な人にとってだけでなく、校区に住んでいる方誰にとってもやさしい校区になること、そして考えることが自分自身を見つめ、自分のよさにつながることに気づくことができると考える。
 - ・追究したことを集約することで、自分の生活に深く関わっていることに気付いたり、イメージマップや中間交流会などを計画的に取り入れたり、自分のこれまでの追究活動をパンフレットにまとめたりして振り返ることで自分のよさや成長を実感することができる。

3. こんな支援で

- つかむ段階で、疑似体験や目の不自由な人との出会いを通して、思いや願いを知り、自分なりの考えをもち、課題をもつようにする。
- 課題設定や追究活動の途中に「ふりかえり」の時間を設定し、子ども自身の気付きが表れている箇所に伸びが実感できるような朱書きを書き入れる。
- 追究活動の途中で中間交流会を開き、これまで調べたことや考えをまとめ、成果を確認するとともに、友達からアドバイスをもらうことで今後の方向性を明らかにでき、追究活動が広がり深まるようにする。
- 「自分にできることを考えよう。」というサブテーマを設け、学習のゴールを見通して活動できるようにする。また、学習の始めと終わりにイメージマップを書いたり、追究してきたことを凝縮ポートフォリオとして個人でパンフレットにまとめたりして、思考を確かなものにするようにする。

4. こんな子どもに

- 疑似体験や目の不自由な人との出会いを通して、自分なりの課題をもち、活動計画にそって意欲的に追究活動を行うことができる。【主体的、創造的な態度】
- 解決の見通しをもって追究活動を行い、必要な情報を選択したり相手にわかりやすく伝えるような方法で調べたりすることができる。【問題解決にあたっての学び方】
- 障がいのある人の考え方・生き方に共感し、自分にできることを考え行動するなかで、自分の学びや成長に気付くことができる。【自己の生き方】

5. 学習活動計画 (全30時間)

段階	配時	学習活動と内容	評価規準	重点指導事項
		目が不自由ってどんなこと		
つかむ	1	1. 「目が不自由」ということについてのウェビングをし、お互いのイメージを出し合う。	○自分の考えをつくらることができる。 【主体的, 創造的態度】	※ これまでの経験や疑問点などを思い出させながら, イメージマップに表すことができるようにする。
	3	2. 疑似体験をする。 アイマスク体験や点字体験を通して, 気づいたことや考えたことを交流する。	○介助者・ボランティアの立場からも考えをもつことができる。 【主体的, 創造的態度】	
	3	3. 目の不自由な○○○○さんに出会う。 ○○さんに, 質問に答えてもらったり, 自分たちの考えを聞いてもらったりする。	○○○さんに出会う前の自分と今の自分を比べてふり返ることができる。 【自己の生き方】	※ 事前に質問事項をまとめ, 出会いがスムーズにできるようにする。
	9	4. 調べたいことを自分なりに調べる。	○今の○○校区が目の不自由な人にとって住みやすい町かどうか, 自分なりの考えをもつことができる。 【主体的, 創造的態度】	
深める	②	(1) フィールドワークをして, ○○校区の様子について話し合う。		
	①	(2) 調べてみたいことを決める。		
	⑤	(3) 調べたり活動したりする。 ① 本やインターネットで調べる。 ② 中間交流会をする。	○友達から, 調べて良かったことやアドバイスをもらって, 次の追究活動の方向性を考えることができる。 【問題解決にあたっての学び方】	※ 中間交流会では, シールや付箋紙を使って, これまでの調習のよさやアドバイスなどがわかり, 課題や追究方法の見直しができるようにする。
	①	(4) 調べたことをもとに, ○○校区が目の不自由な人にとって住みやすい町かどうかについて考えを出し合う。	○これまでの活動や興味関心の中から, 調べてみたいことを決めることができる。 【問題解決にあたっての学び方】	
広げる	2	5. 本単元のめあてをもとに自分の課題を決め, 学習計画を立てる。 ○○校区が目の不自由な人にとって住みよい町かどうか調べよう。		
	8	6. 課題にそって調べたり, 活動したりして, 発表会をする。	○提案したいことをわかるようにまとめている。 【問題解決にあたっての学び方】	※ 中間交流会や調べ学習で蓄積したプリントを活用できるようにする。
	⑤	(1) 調べたり活動したりする。 ・ 本やインターネットなどで調べる。		
	②	(2) 調べたことをパンフレットにまとめる。	○自分の取組が, 自分自身のやさしさにもなっていることに気づくことができる。 【自己の生き方】	
	①	(3) パンフレットをもとに, 調べたことを発表する。		
	4	7. 自分の活動をふり返り, 自分にできることを考える。	○ これまでの活動をふり返って, 自分の成長に気づくことができる 【自己の生き方】	※ 今までの自分と学習後の自分を比べて考えることができるように, これまでのポートフォリオを活用する。
	②	(1) 「目が不自由」ということについてウェビングをし, 気付いたことを出し合う。		
	①	(2) 単元に入る前の自分と取り組んだ後の自分を比べ, 自分の成長に気付く。		
	①	(3) 自分にできることを考える。		

6. 本時指導案

(1) 単元名 「誰にでも住みよい町 ○○」 本時 (15 / 30)

(2) 本時の目標

- 中間交流会を開き、これまで調べたことや考えをまとめ、グループで交流するとともに、友達からアドバイスをもらうことで、次時への追究活動の見通しをもつことができる。

【問題解決にあたっての学び方】

(3) 本時指導の考え方

め す子ども

これまで調べたことについて、まとめたり考えたりしたことをグループで聞いてもらいました。今 の中間交流会で、し課題を調べた友達から、自分がまだ調べていないことをアドバイスしてもらったり、課題の友達からは、「よく調べている。よかったよ。」と言ってもらったりしました。また、課題の友達に、よい資料をアドバイスしたり、を ったりすることもできました。そして、次にどんなことを調べると良いかが分かりました。

本時までには子どもたちは、疑似体験や目の不自由な人との出会いを通して、「目が不自由ってどんなこと」についてイメージマップを書いている。また、フィールドワークを通して、○○校区の様子を知り、調べてみたいことを決め、本やインターネットなどで追究活動を進めてきた。

本時の交流会は、子どもたちがこれまで調べてわかったことやまだわからないこと・もっと調べてみたいことなどを整理して発表する会である。交流を通して、今までの追究活動をふり返り、ない点に気付き、次の追究活動への意欲を めることを らいとしている。

そこで本時では、少人数グループでの交流の場を設定し、一人一人まとめたことを発表することができるようにする。また、交流会の中で難しい意味の言葉にはオレンジシールを、よく調べている内容についてはピンクの付箋紙によかったことを書くことを、もっとくわしく調べるとよいものについては、黄色の付箋紙にアドバイスを書くこととし、これまでの追究活動のよさや足りない点が視覚的にとらえられるようにする。

(4) 板書計画

誰にでも住みよい町 ○○	
めあて 中間交流会をして、自分が調べたことを ふり返ろう。	まとめ ・ 課題の友達から よく調べていてわかった。 アドバイスをもらった。 ・ ちがう課題の友達から 知らないことがわかって良かった ・ これから調べたいことがわかった。
中間交流会の流れ 1. 調べたことの発表 ・ 課題 ・ 調べようと思ったわけ ・ 調べ方 ・ 調べたことやわかったこと ・ もっと調べたいことや よくわからなかったこと 2. 交流 ・ オレンジシール しい ・ ンク よく調べていること ・ もっとくわしく調べるとよいこと	

(5) 展開

学習活動と内容	評価規準	重点指導事項
<p>1. 前時までの学習をし、本時のめあてと交流会の流れを確認する。</p> <p>(1) めあてを確認する。 めあて <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 中間交流会をして、自分が調べたことをふり返ろう。 </div></p> <p>(2) 流れを確認する。</p> <p>① 調べたことの発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題 ・ 調べようと思ったわけ ・ 調べ方 ・ 調べたことやわかったこと ・ もっと調べたいことやよくわからなかったこと <p>② 交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 難しい言葉 ・ よく調べていること ・ もっとくわしく調べるとよいこと <p>2. 少人数グループで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 盲導犬の指示のことばをくわしく調べていてすごいです。 ○ 日本と外国の盲導犬の数がこんなにちがうのはわけがあるのですか。 ○ 目の不自由な人に役立つものの名前「感光器」が難しいので、もう少し調べると分かりますか。 ○ 点字ブロックのことなら、□□で検索したらくわしく分かりますよ。 <p>3. 本時をふり返り、交流したことを全体に発表する。</p> <p>(1) 中間交流会をしてよかったことや次の時間から調べてみたいことを書きまとめる。</p> <p>(2) 全体に発表する。</p> <p>4. まとめをし、次時の学習の確認をする。</p> <p>(1) 交流活動への価値付けをする。</p> <p>(2) さらにはっきりとした課題をもって、追究活動を進めていく確認をする。</p>	<p>○ 追究方法や追究内容についてグループで交流し、よかった点や足りない点に気付き、次時への追究活動の見通しをもつことができる。 【問題解決にあたっての学び方】</p>	<p>○ 付箋紙やシールを使って、調べたことや次時への見通しが視覚的に捉えられようにする。</p> <p>○ 交流して気付いたことから学び方の価値付けを行い、今後の追究活動への意欲付けとなるようにする。</p>